

環境レポート2007の発行にあたって

～ ご挨拶 ～

昨年10月に弊社の環境に関する取り組みを取りまとめた“NEXCO西日本環境レポート2006”を初めて発行してから、早くも1年が過ぎました。この間、環境に対する世界の認識は、アメリカの前副大統領アル・ゴア氏の「不都合な真実」という映画にも示されたように、地球温暖化の進行による様々な弊害を目の辺りにして、“地球は怒っている”ことを実感させられる状況になっています。日本においても年を追って激しさを増す台風や局地的な大雨、観測記録を各地で更新する夏場の異常な高温などといった異常気象が起きています。これら異常気象の原因の一つと考えられる温室効果ガスの排出量は、残念ながら京都議定書で約束された削減とは逆の現象を示しています。つまり、1990年より8%増加し、「地球温暖化防止の取り組みは待ったなし、明日からでは遅すぎる」とまで言われています。

このような社会情勢を踏まえ、私どもは昨年取りまとめた「環境に対する基本的な考え方」と「環境保全への取り組み」をもとに、事業部ごとに環境に関する具体的な取り組み項目と年度の目標を定めた「2006年度環境アクションプログラム」を実行し、その達成に努めてまいりました。その結果、僅かな量ではありますが2005年度に比較してCO₂排出量を削減することができました。これは貴重な第一歩だと思います。さらに私たちは、環境マネジメントをより確実なものとするため、来年度早期に本社でのISO14000認証取得を目指して、その条件達成に取り組みます。

さて、弊社及びグループ各社は、高速道路という社会資本を基に成り立っている会社であり、私どもの全ての事業活動は、お客様・地域の皆様そして社会に対してお役に立つものでなければならぬと考えます。「いいことやろう西日本、社会に尽くそう西日本。高速道路で西日本。」これは2007年のNEXCO西日本グループの中期経営計画のスローガンとして掲げたもので、グループの社員一同が、CSR、即ち企業の社会的責任・社会貢献が経営の根幹であることを理解して、全ての事業に取り組んでいこうという決意の表明です。

本年10月には本社にCSR推進室を設置し、CSRとして、環境も視野に入れた取り組みを行い、一步一步着実にCSRを推進していくことで、将来の一層前進した環境経営に繋げていきたいと考えます。

昨年から環境マネジメントシステムを導入し、初めてPDCAサイクルを回した結果を本レポートに記載しております。引き続き皆様からの忌憚のないご意見と、また弊社の活動にご支援・ご協力を賜りますようよろしくお願いいたします。



2007年12月

西日本高速道路株式会社 代表取締役会長 C E O

石田 孝